

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバ出現数が増加しています

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称ハナ)

ラーバは奥内沖で11月22日に0.8個体/m³、11月29日に1.7個体/m³、久栗坂沖で11月30日に7.8個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは11月29日に奥内沖で0.8個体/m³見られました (表1、図3)。

卵は奥内沖で11月22日に1.7個/m³、11月29日に5.8個/m³、久栗坂沖で11月30日に0.6個/m³、野辺地沖で11月16日に1.6個/m³見られました (表1)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは奥内沖で11月22日に45.8個体/m³、11月29日に94.2個体/m³、久栗坂沖で11月30日に68.9個体/m³、野辺地沖で11月16日に12.5個体/m³、11月22日に3.9個体/m³、12月1日に24.2個体/m³、川内沖で11月15日に25.8個体/m³見られました (表1、図4)。

(4) その他

サンカクフジツボのラーバは奥内沖で11月29日に0.8個体/m³、アミクサの小枝は奥内沖で11月29日に2.5個/m³、野辺地沖で11月16日に59.0個/m³、11月22日に18.8個/m³、12月1日に0.8個/m³見られましたが、キヌマトイガイのラーバとオベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位: 個体/m ³									
		ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ ラーバ	マボヤ 卵	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカク フジツボ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝	
奥内沖	R3.11.22	0.8	0.0	0.0	1.7	0.0	45.8	0.0	0.0	0.0	
	R3.11.29	1.7	0.0	0.8	5.8	0.0	94.2	0.8	0.0	2.5	
久栗坂沖※	R3.11.30	7.8	5.0	0.0	0.6	0.0	68.9	0.0	0.0	0.0	
	R3.11.16	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	12.5	0.0	0.0	59.0	
野辺地沖	R3.11.22 ¹⁾	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	18.8	
	R3.12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.2	0.0	0.0	0.8	
川内沖※	R3.11.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.8	0.0	0.0	0.0	

※の久栗坂・川内沖は実験漁場内、1)は時化により上層の採水のため参考値

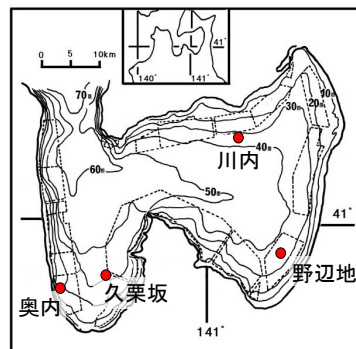


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層水温は11~15℃台で、ユウレイボヤが産卵する20℃以下の水温になっています。

久栗坂沖の累積ラーバ数が9.5個体/m³と多くなっています。例年10~12月にラーバが出現することから、未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバの出現数がさらに増加する可能性があるので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバが増加していますが、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

マボヤは卵とラーバが見えているので、今後ラーバが増加するものと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

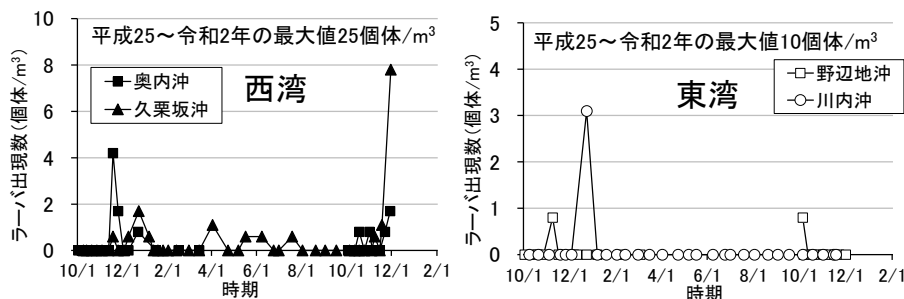


図2 ヲレイボヤラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

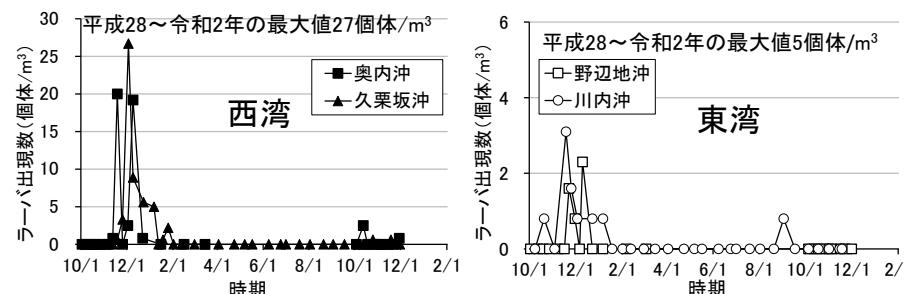


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

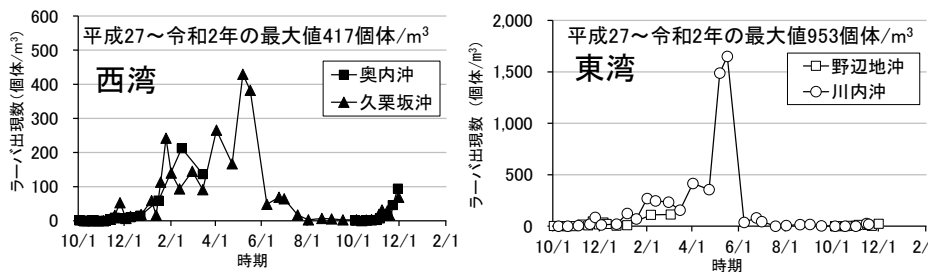


図4 ムラサキイガイラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年12月)

